

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲を高め、進路選択に結び付く教育課程の改善に取り組む。 ボランティア活動を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。 	生徒の多様な進路希望に対し、生徒にわかりやすい総合学科としてのカリキュラムの充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの自己実現・進路実現に向け各種ガイダンスを実施し、生徒が獲得した各自の進路希望に対応し、自主的積極的に課題に取り組めるよう、グループ学習や発表型授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で発表型授業・グループ学習を授業に取り入れることにより、生徒の授業参加がより主体的になったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 系列の整理を行い、担任を中心に各種ガイダンスによって、生徒個々に対応した科目選択をすることができた。 全教科で発表型授業-グループ学習を実施し、教員の様々の工夫もあって、生徒の自主的-積極的授業参加が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度上級学校との連携で、一つの方策が求められたが、慢性的に講師-施設等の充実が望まれる系列がある。 数は少ないが学習意欲を感じさせない生徒への対応を如何にするか、更なる工夫が必要である。また、学力の定着-学習習慣の確立を図る具体的手立てを求めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校名に総合が入っていることは、多種多様なことが学べるということで、生徒に総合でよかったといわせる特徴を今後も持つてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 系列が整理されて4系列になったことで、外部講師を招いて講座を充実させた。 授業の中でも教えあう姿勢が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力の定着-学習習慣の確立を図る具体的手立てを求めたい。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。 教育相談コーディネーターを活用した生徒一人ひとりへの支援体制の充実を図る。 	生徒の規範意識の確立を図り、豊かな心の育成に向けた取組みを充実させるため、ケース会議を開催し、外部機関や専門機関との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から生徒一人ひとりの変化に気づき、生徒の情報交換や支援体制を充実させるために、教科担当者会議および年次会を定期的で開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担当者会議を年1回、年次会を月1回開催できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担当者会議1回、年次会月1回、ケース会議5回を開催し、生徒への支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> SCやSSWとも連携し、ケース会議もできる限り開催したが、生徒一人ひとりへの充実した支援体制を行うことは物理的に難しい。教育相談コーディネーターの増員、もしくは他の業務軽減等については要望したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今の学生に必要なこと、大切なことは、礼儀正しさ(挨拶)、活発な課外活動(生徒の頑張りに)、学力(生きる力)・人間力、であり、自分のやりたいことができることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担当者会議ケース会議等定期的に行われているが、小さいものではほぼ毎日生徒のことを考えている。 生徒指導案件では人間関係のトラブルや迷惑行為があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談コーディネーターの増員の要望、もしくは他の業務軽減等については検討したい。
3 進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」を基盤とした、生徒一人ひとりの進路実現に結び付く進路指導・支援体制の充実を図る。 	(1)進路実現を図るため、進路情報を積極的に発信する。 (2)授業や部活動、学校行事の運営を通じてリーダーの育成と社会性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 適切な進路選択、進路実現に向けた指導が行えるよう、「秦総ライブラリー」をさらに充実させ、情報の共有化をさらに推進させる。また、進路分野別に情報紙などの発行や説明会を行いタイムリーで有効な情報を発信する。 授業での積極的な発言、発表や各種行事への参加を促進させる。また、部活動や校外学習など体験的活動への参加を促進させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「秦総ライブラリー」が、活用され、進路分野別に適切な情報を発信できたか。また、アンケートの結果、生徒が満足できる情報であったか。 生徒による授業評価や授業担当者による評果が向上し、また校外学習など体験活動の参加者が昨年より増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、「秦野総合のための大学(短大)&企業案内」を編集し、教員及び生徒に適切な情報の発信を行い、進路指導に活用した。 総合学科夏季連携講座において、昨年度13名から今年度31名と参加者が大幅に増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供については、専門学校編も編集し、さらに充実した情報の提供について、取り組んでいきたい。 32年度入試改革に伴い、本校の進路指導、学習指導のあり方について検討する必要がある。 校外学習や体験活動については、今後もさらに充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価が素晴らし。進路の報告で学力が問われているとあったが、身についた能力が社会でどのように生かされるのかが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年にわたって、連携講座など校外の体験活動を勧めている。 高大連携講座において、総合学科高校夏季連携講座に18名参加し、他に大学との連携講座で単位取得した生徒がいる。「社会福祉基礎」の授業では神奈川県立工科大学の関連授業を受講した。 進学者のうちAO入試、推薦入試が94%を占める。入試改革によりどのように変わっていくのか、十分な準備をさせなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 32年度入試改革に伴って、推薦において学力が問われるものとなるため、次年度よりそのための検討を行う。

4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動を核とした地域貢献を図る。 地域・社会との相互交流による教育の推進として、「南が丘地区豊かな心を育む協議会」との幅広い連携と協働を図る。 	<p>(1) ボランティア活動、あいさつ運動を核とした地域との連携を深める。</p> <p>(2) 地域の小・中学校や自治会と連携を深め、教育活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアバンクを活用して積極的にボランティアへの参加を図るとともに、地域のあいさつ運動においても、地域の方々とのあいさつを通して、生徒一人ひとりのコミュニケーション能力の育成を推進する。 南が丘地区にある幼稚園・小・中学校との連携をさらに推進し、地域の自治会等の行事に積極的に参加するなど、教育活動の充実に向けて連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに参加する生徒の延べ人数が昨年度より増加し、かつ参加する生徒の意識の向上が図れたか。 生徒の教育活動に対して、地域の方々からの感謝の言葉や、自治会等の協力的な支援が得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もボランティアに参加する生徒がいますが、年度当初よりの参加延べ人数は例年並みであった。 また、事後の生徒報告では老人介護施設での経験を今後活かしていきたいとの感想などがあった。 地域でのさまざまな活動に対して、幼稚園・小・中学校小学校PTAや自治会から感謝の言葉をいただき、生徒の自信と今後の更なる活動への力になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに参加するメリットは、卒業後の人生に何らかのプラスになることの意義を、多くの生徒たちに理解させる指導をコツコツと行い、多くの生徒が積極的に募集事項を親て理解し、進んでボランティアに参加したいと願うような指導や支援ができるようにしたい。 地域との協働という観点から、授業をはじめ、さまざまな教育活動に地域等からの協力や助言などをいただきながら、南が丘地区における連携を更に深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 秦野総合高校の生徒は行儀がよく、あいさつがありがたい。 地域、南が丘、総合高校がもっと密着し、地域の行事に生徒がもっと参加してほしい。 高校からの積極的なアプローチが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月の地域貢献活動は荒天のために中止したが、12,2月に周辺清掃活動をボランティアで実施した。 多くの生徒がボランティアに参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに積極的にボランティアへの参加を促すとともに、地域共同の柱となれるように、アプローチしていきたい。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 コミュニティ・スクールを中心とした学校運営への変換を図る。 	<p>(1) 安全管理・危機管理等を踏まえた連携体制を整備する。</p> <p>(2) 学校と保護者や地域の方々力が合わせて取り組むコミュニティ・スクールのシステムを構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理支援システムを用いた成績処理・帳票管理において、手順・点検を確認し、必要に応じて再整備を図る。 地域ボランティア部会とキャリア・連携部会の2つの部会を設置し、地域・保護者と協力して、教育活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理支援システムの運用において、手順・点検体制を整備できたか。 2つの部会を設置し、年3回以上運営できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の定期試験、成績処理の業務において、グループ会議で手順の確認を行い、適宜修正を行った。 部会の設置及び地域貢献活動や大学等と連携した活動ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順・点検の整備とともに、事故防止に向けた職員一人一人の意識の向上をはかり、確実に実行してゆきたい。 職員の意識改革とともに、地域への発信方法や大学等の上級学校の活用について検討し実行に至りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 部会の設置及び地域貢献活動は、地域との交流はお互いの立場を理解しあえる場であるよい企画である。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理等における事故防止に努めた。 2つの部会を設置し、全日制と定時制で「授業研究」「高大連携」「地域連携」「生徒指導」「入学者選抜」「卒業生の進路状況」について交互に報告し、適正に運営できた。 	<ul style="list-style-type: none"> さらなる手順・点検の整備を行い、事故防止に努めたい。